

入院日記

11月20日から12月3日まで、ちょうど2週間の入院生活を送った。重い荷物をかかえ、汗をかきながら病室に入ったが、退院したときには木枯らしが吹きつけていた。

入院先は名古屋市立大学病院であり、病室は10階南病棟1058号室だ。ここからは西に視界が広がり、名駅方面を一望できる。冬なので朝は6時半頃から、だんだんと明るくなる。夕方は4時半頃には夕焼けが楽しめる。目の具合が悪く、あまりよく見えなかったが、こうして写真で見ると美しさを実感できる。夕焼けが終わり、暗くなってくると、なんだか寂しくなってくる。



退院後すぐに活動できるよう、朝早くなどに、できるだけ歩くようにした。10階フロアしか歩けないので、ひたすら廊下に引かれた「イエローライン」をうつ向き姿勢で何周もした。朝早くには、内緒に別ルートを何回も往復した。食堂からは、東に広がる朝焼けの空を楽しめる。写真は入院2日目の朝だ。



病室ではうつ向き姿勢で本を読んだが、ラジオを聴くことも多かった。NHKのFM放送が大半であり、じっくりとクラシックを楽しむことができた。夕方の番組で「奨学金問題」を特集していたのが記憶に残る。それとICレコーダーで録音しておいた講演などに耳を傾けた。2011年2月11日に大阪で行われた「大阪都シンポジウム」の講演録は何回も聞いた。入院3日目に大阪W選挙があり、その「結果」に衝撃を受けたことによる。これについては、またレポートしたい。



今回も小椋教授をはじめ、多くの先生方にお世話になった。それと看護師さんたちには、きめ細やか温かい看護をしてもらい、本当に感謝している。とりわけ手術前の緊張気味のときの「励まし」の言葉が忘れられない。看護師さんたちの厳しい労働の実態も垣間見ることができた。「患者参加型看護」を目標に掲げており、患者の一人として興味をもった。2年前の入院のときも退院後に「礼状」を送ったが、「患者参加型看護」に対する提案も含めて、今回も「礼状」を書くことにしよう。

(2015年12月8日)